

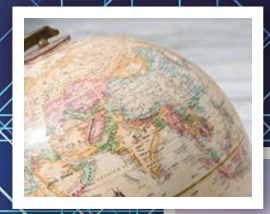


■ 総合科目(学士基盤科目)
(科目番号1226151)
社会基礎学I

■ 総合科目(学士基盤科目-高年次向け-)
(科目番号1426011)
社会基礎学II

■ 大学院共通科目
(科目番号0A00402)
日本が目指すSociety5.0と次世代モビリティ

■ 大学院共通科目
(科目番号0A00401)
多極化する世界とこれからの日本



同期と 七カ国と 教室で

筑波大学
×
JAPIC
日本プロジェクト産業協議会



受講案内

2023





この授業

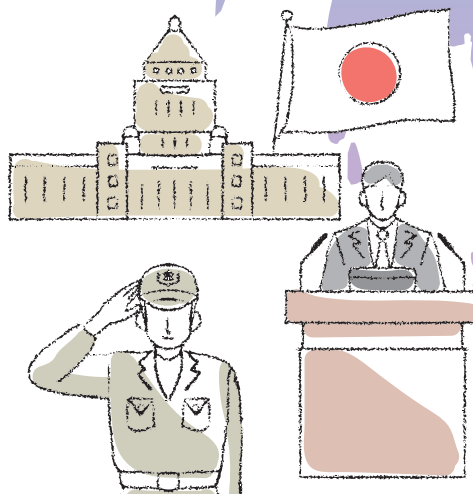
16つの

「グローバル化と地域の日本のあり方」と同期する

我が国は課題解決先進国といわれます。その課題とは、たとえば公害に対する環境保全や省エネルギー化、少子高齢化などへの取組みを挙げることができます。これら多くの課題のなかに、世界に先駆けて直面して取り組み、解決をみてきたものも少なくありません。またそれらの取組みには、ローカルな地域での取組みが、国としての取組みより活発な場合もあります。ローカルな取組みが世界に輸出できる、という考え方も現実味があります。そのようなGlobalとLocalな関係に光をあてて理解を深めましょう。

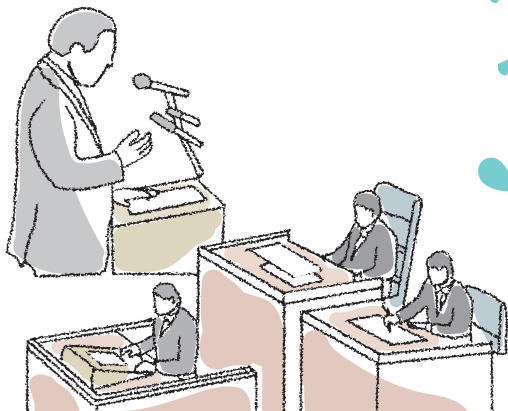
2 「政治・政策」と同期する

平成27年(2015年)に公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。すなわち、大学に入った皆さんにはすべて選挙権があることとなります。しかし、選挙で選ばれた国会議員、地方自治体の長や議員はどのような役割を持つのか、そもそも政策の決定過程はどのようなものなのか、知っているようでわかっていないことも多いでしょう。そのような政治と政策の関係に光をあてて理解を深めましょう。



3 「安全保障・憲法」と同期する

我々の普段の生活が守られ、生きて行けることは大事なことです。しかし、地球規模で見れば、国家間の争いや緊張が絶えない時世でもあります。我が国の第二次世界大戦での敗戦から、日本国憲法第9条に定めた戦争の放棄、世界屈指の経済大国に成長する過程などにおいて、国家間の安全保障に関する現代的な側面と現状を知ることはとても重要です。さらに昨今は、経済安全保障ということもいわれるようになりました。このような安全保障・憲法についての諸課題に光をあてて理解を深めましょう。



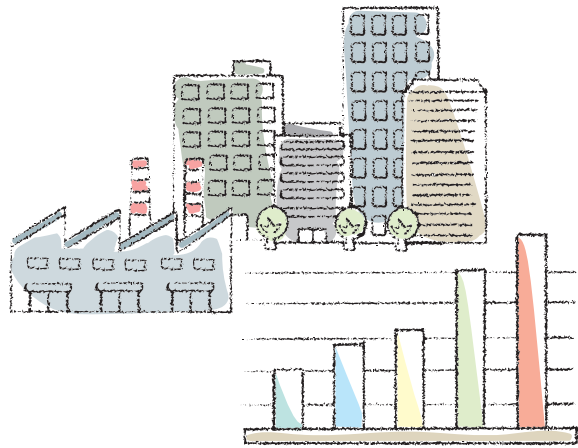
「同期する」とは？

「同期する」の意味は、期を同じくする、でしょう。「期」には、とき、定められた日時、示した6つのセカイも、年月を経るごとに変化し、日々動いているものです。ここでは、

で広がる

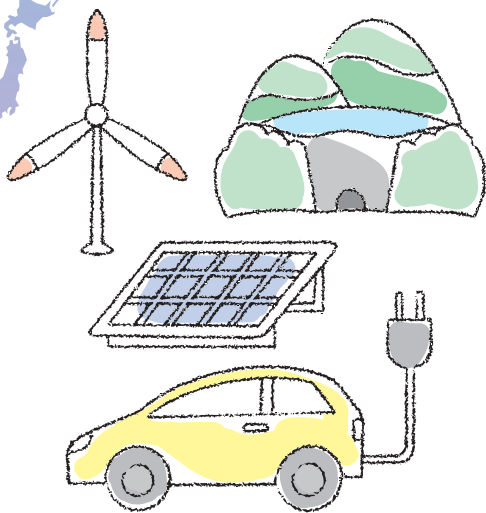
セカイ

4



「経済・産業」と同期する

我が国の経済は、1990年代のバブル崩壊前の勢いを未だに取り戻しておらず、失われた30年ともいわれています。米国はこの30年で堅調な成長を続けていますが、我が国はそのような成長ができなかった、という問題が指摘されています。世界経済の変化と日本の産業のあり方、世界の潮流にも目を向ける必要があります。経済の発展と産業の育成、企業のあり方についてどのように考えればよいのか、これらの諸問題に光をあてて理解を深めましょう。



「環境・資源・エネルギー」と同期する

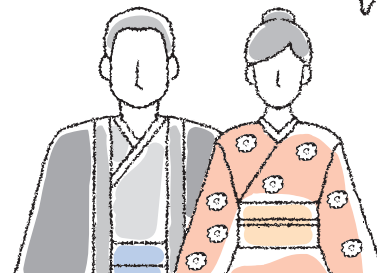
化石燃料の大量消費による地球温暖化は、地球規模課題の代表例です。これ以上の温暖化を防止するために、化石燃料の消費を可能な限り控える脱炭素、そして再生可能エネルギーへの転換が急速に進んでいます。エネルギー資源の確保や環境保全の問題は、GlobalにもLocalにも、国家と国家の間にも、そして経済や産業の面にも、縦に横に複雑に絡むものです。そのような環境・資源・エネルギーに関連する諸問題に光をあてて理解を深めましょう。

5

6

「世界/アジア」と同期する

国内における課題も多い中で、我が国は遠い国との国際協力も推進しています。このような国際協力の実践は、どのような思想・理念で行われているのかを知ることにも重要です。実は、グローバルと地域の日本、安全保障など、これまでに出てきた観点とも絡みあいます。中国の台頭と東南アジア諸国の対応、そして我が国との関係、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交もまた諸問題に直面しています。これらに光をあてて理解を深めましょう。



などの意味がありますから、「同期する」とは総じて相手のテンポや動きに合わせる、という意味を伝えるでしょう。ここにそれらに常に関心と興味を持ち続け、観察と理解を続けよう、という意味で「同期する」という言葉を当ててみました。

Student's Voice 授業に出席した

実際の最前線で活躍する方々の話は、机上の勉強では得られない

専門以外の視野が広がった

知的好奇心を刺激された

答えを知るのではなく
トップリーダーと共に考える場

Z世代の興味に刺さる、第一線の声

総合学域群第1類

岩本 樹里 [Iwamoto Juri]

私はグローバル化に伴う経済発展と環境保全の間に生じるジレンマについて興味を持っていました。第一線でご活躍なさっている方々から生のお話を聞けることに惹かれ、本講義の受講を決めました。実際、豪華な講師陣のお話には、現場を知るがゆえの重みを感じられました。内容に関しても、グローバル化と新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ戦争といったタイムリーな話題を絡めていらっしゃる方が多く、質問にその場でご回答いただけることもあり、非常にライブ感の強い講義でした。回を重ねるごとに、社会の事象には多岐にわたる分野が関連していることを実感し、そのような社会を理解すべく、学際的な視点を養って行きたいと思いました。

自分自身の考えを精緻化できる講義

生命環境学群 地球学類

石原 慶輔 [Ishihara Keisuke]

私がこの授業に参加したのきっかけは単純に面白そうだったからだ。日本における各界のトップの話を生で聴ける機会はそうそうあるものではない。我々はもう二十歳になる頃であるが、まだ学生でもある。もし学生でなかったとしてもこのような機会は逃すべきでない。人によっては自分の将来像がしっかりしていて、その目標を達成するための手段としてこの講義を利用活用するのだが、興味本位で良いのである。この講義で話される事柄で自分のためにならない話はなかった。知識として持っていることで人生が豊かになるものばかりであった。



研究とビジネス、それぞれの共通点

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
ニューロサイエンス学位プログラム

澤井 建人 [Sawai Kento]

多くの友人たちが企業に所属し、ビジネスの世界に入っていく中で、私はこれまでにビジネスという営みについてよく考えたことがありませんでした。そこで世界を股に掛ける商社社員の方々から商社ビジネスのエッセンスを学べるということで講義を受講しました。講義の中でビジネスは論理的であることが大切という言葉が印象的でした。現状から問題を探し、仮説を立て、行動するという点で研究と共通点があると気づきました。この経験は大学院に所属し、研究者を目指している私にとって二つの世界のつながりを見出す貴重な機会になりました。今後は研究のスキルが他でどのように生かせるのかについても考えながら、研究に邁進していきたいと思っています。

遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感

理工学群 社会工学類

菅野 恭花 [Kanno Kyoka]

本講義の受講を決めた主な理由は、普段ではかかわることのできない講師陣が私たちの世代に向けた授業をしてくださることが魅力的に感じたからです。私は「都市」について興味があったので本講義で、省庁、不動産業界、また他分野の企業からの意見を聞いたことは非常に貴重でした。自主的に調べる際はどうしてもその業界にのみ注目してしまうので視野を広げるいい機会になったと思います。講義内容は少し難しいものもありましたが、講師の方々自身が自身の体験談などを交えて説明してくださり、世界で起きている出来事や問題など、今まで遠い世界のことだと思っていたことが意外にも身近であると実感しました。

自分自身を見つめ直し、視野を広げる

理工学群 化学類

栗幅 建年 [Kurihaba Taketo]

教科書などでは学ぶことのできない今この瞬間に日本・世界で起こっていることについて、最前線の立場に立っていらっしゃる各業界トップの方々から直接貴重なお話を聞ける素晴らしい機会となりました。講義終了後は講師の方に直接質問させていただける機会もあるため、より主体的に学びを深めることができると思います。扱う内容は文理問わず多岐に渡り、また講師の方々にはありとあらゆる観点から物事を考えていらっしゃるため、講義を通じていかに自分が狭い視点から世界を見ていたのか痛感すると共に、より俯瞰的、客観的な視野を育むことができました。高年次向けの科目ではありますが、私のように1年次に受講したとしても、たくさんの学びを得ることができると思います。

学外のトップマネジメントの皆さんから実務の最前線のお話が聞ける

人文社会ビジネス科学学術院
国際経営プロフェッショナル専攻

永嶋 彰代嗣 [Nagashima Akiyoshi]

ご入学おめでとうございます。入学式で配布された受講案内をご覧になって、今、このページに辿り着かれたのだと思います。私がJAPIC講座を受講しようと思ったのは、まさにこの受講案内がきっかけでした。私は、働きながら学べる本学の社会人大学院が魅力的で入学を志しました。大学院共通の科目が豊富に用意されている中、JAPIC講座は学外のトップマネジメントの皆さんから実務の最前線のお話が聞けるとあって、早々に履修申請したことが思い出されます。講義は筑波の本校で開講されることから、東京から通う私にとっては負担も大きかったのですが、それに見合うお話が聞えました。加えて、若い大学院生の皆さんとディスカッションすることができたことは大変有意義でした。

学生の感想

今まで遠い世界のことと思っていたことは意外に身近だ

トップリーダーの思考のプロセスを学べた

私たち世代に向けた授業

講師と議論できる!

様々な面から見た「社会」を「私達の現実」として受け止められる

人間学群 心理学類

高橋 和真 [Takahashi Kazuma]

政治、特に安全保障に関心があったので受講しました。特に、他の分野の講義でも多く共通して、市民全体の活動の重要さが語られていたことが印象に残りました。政治であれば政策の詳細を知って有権者が協議・申し立てをすること、地域振興であれば民間企業や住民が積極的に参画することの大切さがわかりました。今の日本や世界には様々な問題がありますが、それらは革新的な理論やリーダーシップを持つ人材だけでは解決できないと思います。政治も経済も、専門的な議論として抽出すればなんだが別世界のように見えてしまいますが、それはあくまで同じ一つの現実であり、あくまで社会は人の集まりであること、それゆえ一人一人の働きが大切であることを再確認させていただきました。

様々な背景を持つ学生が集まり意見を交わす、大学ならではの貴重な機会

情報学群 情報科学類

竹内 優 [Takeuchi Yu]

連続リレー講義の案内を受け取ったとき、他の講義にはない現代社会をテーマにしている点が興味深いと思い履修を決めました。様々な講師からのお話は、今トップと呼ばれている人が日本の現状に向き合っていくために考えていることを知る大変貴重な機会になりました。講義全体を通して、現代社会に対する自分自身の視野が広がりましたし、将来の日本について、予測できないからこそ自分たちでどうしていきたいかについて自分で考えるきっかけにもなりました。また、今の社会に起きていることについて、情報をただ受け取るのではなく、自分で考えて疑問を持つことの大切さを強く感じました。

議論することに価値を置く講義

理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 社会学学位プログラム

浅見 知秀 [Azami Tomohide]

講義の内容が、研究テーマに近いもの(次世代モビリティ)であったため受講しました。講義ではモビリティに留まらず、高原教授が行政官として携わる科学技術・イノベーション推進政策の最新情報(AI、量子コンピューターなど)を知ることができ有意義な時間でした。また議論や質問の時間が多めに設定されています。先生と受講生が車座になり、弁証法のアプローチを用いて、社会課題について議論する機会は少人数講座ならではの楽しい時間でした。高原教授のトヨタ自動車時代のエピソードや外部講師の方のマーケットデザイン、プラットフォームデザインの講義も印象深いものでした。



ニュースのその奥の世界を知ることが出来る

人間学群 教育学類

高木 里緒 [Takagi Rio]

私は「社会基礎学」という表題に惹かれ、本講義を受講することにしました。普段のニュースで話題に上る問題の「奥」にいる方々の話を聞き、さらに質問もさせていただける機会は滅多にないと思います。本講義を受講し、ほんの少しですが社会の仕組みが理解できたとともに、自分が将来取り組んでみたい課題も見つかりました。学群にとらわれず学際的に何かを学びたい、と思っている人には特に得るものが大きい講義ですので、是非この機会を逃さないでほしいと思います。

視野と視座の広がる大変質の高い講義

人文・文化学群 日本語・日本文化学類

大沼 佑美子 [Ohnuma Yumiko]

この講義を受けたきっかけは、今後社会に出ていくうえで必要な教養を身に付けていきたいと思ったことと、実際に社会の最前線で活躍されている先生方に魅力をもったからです。「グローバル化」と「地方の活性化」…このワードはよく耳にする言葉でありながら、改めて聞かされると本質を全く理解していないことに気づきました。この講義は教室にいながらまさに世界とつながる、大変意義のあるものでした。特に私はインフラについて専門的な知識がありませんでしたが、まちづくりという観点から自身の専門領域へと複眼的に捉えられるようになりました。

持続可能な新市場形成を見据えて私たちにできることを考える講義

理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 社会学学位プログラム

有澤 瑠利子 [Arisawa Ruriko]

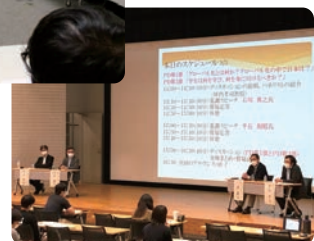
私は社会人学生で、職務でスマートシティの実現を目指しており、先端技術を社会の中に取り入れ、いかに経済と環境を両立した持続可能なまちづくりができるかに関心がありました。モビリティは、これまで個人所有と公共による提供が主流でしたが、環境配慮や人口構造の変化を背景に共有型市場の形成の実現が見据えられています。このことは、移動・走行に関する社会計測のほか、走行軌跡周辺環境の情報収集を可能とし、渋滞解消等の移動に関する社会問題の解決だけでなく、防災・減災といった地域の存続や経済成長を支えることが期待できます。持続可能な新しい共有型市場の形成実現のために必要な施策づくりに活かして行きたいと思います。

■ 総合科目(学士基礎科目) 社会基礎学Iを受講した学生の感想

■ 総合科目(学士基礎科目) 社会基礎学IIを受講した学生の感想

■ 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッション コースを受講した学生の感想

Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.



この講義について

この講義は、上の見出し：「地球規模で考え、地域で行動する。地域で考え、地球規模で行動する。(Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.)」というフレーズがぴったりの講義です。このフレーズを見てもどこか現実感がない、そもそも地球規模の視点でものを考えると、地域で輝く活動するとか言われてもピンとこなかったり、とっつきにくさを感じるかもしれません。でも、すこし前向きに、まずはその実践例を知り、それをもとに自分ならどうするか、どうしたいか、を考えてみませんか？

まず、学群生向けに総合科目(学士基盤科目)として開講される「社会基礎学I,II」は、その実践例を横断的に知るにはまさにうってつけです。国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組みなど様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組みやその実践に至るプロセスをご紹介します。さらに、受講生と講師の方々との質疑応答による議論に重きをおくのも本講義の特長です。その議論によって受講生のみなさんそれぞれの考えが沸々湧くようになればよいですね。この講義に通底するキーワードは Glocal です。Global と Local をつないだ造語ですが、上の見出しを一言でいうような単語ですね。講師の方々から紹介いただく内容は、みな、この Glocal な考え方に紐づけることができます。そして、紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。

これから社会に出て、自分自身の立場を築いていくためには、自分自身の論を言葉で表現しなくてはなりません。その言葉を磨くためには、人と議論を重ねることがとても大事です。そのような濃密な議論ができるように、大学院生向けに大学院共通科目として、アドバンスト・ディスカッションコースと銘打ち、少人数のゼミ形式の講義を用意しました。通底する意識は学群生向けの講義と同様ですが、テクノロジーの活用とGlocalな思想と行動様式、多極化した世界とこれからの日本に焦点をあて、議論を深めていきます。

筑波大学 × JAPIC

この冊子に掲載されている講義は、すべて、筑波大学と日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づいて開設しています。この目的は、本学とJAPICとが相互に連携・協力して、世界で活躍できるグローバル人材の育成を推進し、この国の学術教育研究の振興・発展と人材育成に寄与することです。この協定は、2010年10月に締結され、年度ごとに更新されながら現在に至っています。今現在、産業界・官界で活躍し、世界に挑戦するトップリーダーの方々の派遣も、この協定によるJAPICの指名および本学との協議に基づくものです。トップリーダーからのリアルな実体験を交えての話をお聴きし、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」など、様々な話題について掘り下げていきましょう。これらの講義で扱われている題材はあまり自分に関わりなさそう...と思った学生の皆さん! 講義の終盤には、自分の専門分野と地球規模な諸問題・社会との関わりに気付いてくることでしょう。



JAPIC について



JAPIC 会長
進藤 孝生

[Shindo Kosei]

日本製鉄(株) 代表取締役会長

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council : JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種225社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

● 左上の見出しについて

この見出しは、平成15年版 環境白書の第2章 冒頭部分から引用しました^[1]。実は、このフレーズは、この白書が初出なのではなく、以前から様々な識者が使っているようです。この白書では、地球環境の保全と地域の環境との関係を個別にせず、一連の問題として取り組むことの訴えとしてこのフレーズを示していました。地球規模の課題はとて大きく感じられ、身近にとらえることは難しくても、自分が住む地域のことであれば身近にとらえることもできそうです。大きな地球の問題は地域の問題として活動してみよう、そして、地域の問題を考えることは地球規模の課題として活動してみよう、とらえてはいかがでしょう? さらに地球規模の問題を、単に環境問題だけに絞るのではなく、政治・経済・社会・国際関係など、様々分野に広く複雑に絡み合うことにも考えをつなげてみましょう。

[1] <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h15/index.html>

春B 1226151

社会基礎学Ⅰ — 「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回

5/27 (土) 14:00-17:00

導入講義Ⅰ

筑波大学におけるグローバル人材育成方針

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

導入講義Ⅱ

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]



写真は昨年度までの授業風景です

講義概要

グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

パネルディスカッション

第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

パネリスト

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

パネリスト

経団連21世紀政策研究所 参与

太田 誠 [Ohta Makoto]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

第2回

6/3 (土) 13:30-16:30

地域資本を活用した地域経営

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営企画部
チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

講義概要

人口減少・少子高齢化が進む地方では、地域創生の取り組みが盛んだ。自然資本・人的資本・社会資本を中心とした地域資源を「元手」に、地域を個人・企業・自治体という個で見るのではなく一つの家計と考え、地域を「経営」をすることが重要である。人口減少時代の日本で、持続可能な地域のあり方・地域経営とはどんなものか?皆さんと共に考えたい。

未来の国土づくりを担う皆さんへ

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

講義概要

我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現のための国土づくりや科学技術政策に携わる立場から、我が国が現在おかれている状況と対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う皆様への期待を語る。

貢献できる輝く人材の育成

第3回

6/10 (土) 13:30-16:30

グローバル化と戦争

共同通信社 常務理事

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

講義概要

20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。特に、ロシアのウクライナ侵攻は世界中に衝撃を与え、長期戦の様相を呈している。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。米中対立は戦争に発展するのか。戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。

国際経済と総合商社の活動

丸紅株式会社 経済研究所 産業調査チーム長

重吉 玄德 [Shigeyoshi Harunori]

講義概要

刻々と変わる国際経済の荒波の中で、総合商社がどのようにビジネスを行ってきたのか解説します。MBAで学習する内容もわかりやすく紹介し、総合商社を通して社会人として活躍するために必要な知識に触れていきます。

第4回

6/17 (土) 13:30-16:30

民間デベロッパーとエリアマネジメント

三井不動産(株) 建設企画部長
三井不動産エンジニアリング(株) 代表取締役社長

雨宮 克也 [Amemiya Katsuya]

講義概要

東京都心部では地域価値向上のための「エリアマネジメント」が積極的に展開されている。これらの活動にはそのエリアでの都市開発を主導する民間デベロッパーが中心的な役割を担い、地域社会と連携しながら進めている場合が多くみられる。今、エリアマネジメントに何が求められ、今後どのように展開されていくのか。民間デベロッパーの取組みの視点から、これからの都市開発とエリアマネジメントの展望と課題について皆で考えたい。

モビリティ革命とMaaS (マース)

一般財団法人 計量計画研究所 理事
兼 研究本部企画戦略部長

牧村 和彦 [Makimura Kazuhiko]

講義概要

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service (マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の移動サービスがMaaSです。本講義では、MaaSが私たちの都市やライフスタイル、まちづくりにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

第5回

6/24 (土) 13:30-16:30

国際協力の考え方、およびその実践を通じたグローバル人材の必要要素について

(独)国際協力機構(JICA) 特命審議役

河西 裕之 [Kawanishi Hiroyuki]

講義概要

日本国内における課題も多々ある中、なぜ日本は国際協力を推進しているのか、そして、どのような思想・理念で国際協力を行うのか。また、国際協力の実践を通じて、グローバル人材として求められる要素はどのようなものが重要と考えられるか。具体的な事例も紹介しつつ考える。

最近の経済産業政策について

内閣官房副長官補室 内閣審議官

佐々木 啓介 [Sasaki Keisuke]

講義概要

コロナ禍の状況等を踏まえた国内外のマクロ経済動向を分析しつつ、新たな成長に向けた最新政策を説明。特に、デジタルトランスフォーメーション(DX)、グリーントランスフォーメーション(GX)、スタートアップ、経済安全保障、量子やAI等の科学技術振興等にフォーカスして、最新の経済産業政策を解説する。

期末試験

7/8 (土) 13:30-16:10

秋AB 1426011

社会基礎学II — 「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教学デザイン室長) 他

第1回

10/7 (土) 13:30-16:30

導入講義

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

パネルディスカッション 第1部

グローバル化とは何か？ グローバル化の中で日本は？

パネルディスカッション 第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか？

パネリスト

(株)日建設計 執行役員 企画開発部門
新領域開拓グループ プリンシパル

石川 貴之 [Ishikawa Takayuki]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

パネリスト

(株)三菱総合研究所 主席研究部長/
プラチナ構想ネットワーク 事務局長

平石 和昭 [Hiraishi Kazuaki]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授
教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

写真は昨年度までの授業風景です



講義概要

グローバル化とは何か？日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か？産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

第2回

10/14 (土) 13:30-16:30

企業経営の現状・課題と戦略

日本製鉄(株) 常務執行役員 人事労政部長

十河 英史 [Sogoh Eiji]

講義概要

本講義では、日本製鉄の過去・未来の取り組みを通じて、日本のものづくり産業が目指す成長戦略について考察する。①「鉄」という素材の多様な特性・魅力②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

日本経済が向き合うリスクと 変革の可能性

(一社)共同通信社 論説委員長

永井 利治 [Nagai Toshiharu]

講義概要

日本経済はさまざまなリスクを抱えている。脱炭素、経済安全保障は企業の戦略を大きく変化させ、多くの経営者は緊張感をもって次の一手を検討している。新型コロナウイルスは物流の混乱と資源価格の上昇をもたらし、世界的な金融緩和は転換点を迎えた。日本では財政政策も政治の対立軸になってきた。中長期的なリスクへの対応策と、そこから生まれるゲームチェンジの可能性を探る。デジタル化が進むメディアの将来像にも触れたい。

貢献できる輝く人材の育成

第3回

11/11 (土) 13:30~16:30

北東アジア情勢と日本外交

外務省 アジア大洋州局長

船越 健裕 [Funakoshi Takehiro]

講義
概要

日本をとりまく安全保障環境の中で、日米同盟、日本の安全保障政策、そして対中政策、対朝鮮半島政策をどう考えるか。

組織におけるダイバーシティと人的資本

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

講義
概要

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性は言を俟たない。最近では人材を企業価値の源泉、「資本」としてとらえる機運も高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

第4回

11/25 (土) 13:30~16:30

日本の安全保障環境と防衛政策

防衛事務次官

鈴木 敦夫 [Suzuki Atsuo]

講義
概要

国際社会は深刻な挑戦を受け、新たな危機の時代に入。インド太平洋地域においても、深刻な事態が発生する可能性があり、我が国はこうした動きの最前線に位置している。このように、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、昨年12月に、政府は、「国家安全保障戦略」等の戦略3文書を新たに策定し、今後5年以内に、反撃能力の保有も含めて、防衛力を抜本的に強化することとしている。

いかなる時代においても、国民の命と平和な暮らし、そして、我が国の領土・領空・領海を守り抜き、次の世代に受け渡していくことが政府の責務。安全保障に長年携わってきた経験も踏まえ、新たな戦略文書にもとづく我が国の防衛政策などについて、時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

我が国通商政策の現状と課題について

経済産業省 通商政策局長

松尾 剛彦 [Matsuo Takehiko]

講義
概要

ロシアのウクライナ侵略と西側諸国を中心とした対露経済制裁、米中対立の激化など、これまでになく主要国による地政学的な対立が激しくなる一方、WTO(国際貿易機関)の紛争解決機能が機能不全に陥る等、戦後構築されてきたルール・ベースの貿易システムは、大きな試練に直面している。この事態にどのように対処し、我が国、ひいては世界経済の発展を確保すべきか議論する。

第5回

12/2 (土) 13:30~16:30

パネルディスカッション

我が国が直面する構造改革と社会資本整備

パネリスト

国土交通省 不動産・建設経済局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

パネリスト

株式会社みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

遠藤 宏 [Endou Hiroshi]

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授 教学デザイン室長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

期末試験

12/16 (土) 13:30~16:10

春C 0A00402

日本が目指すSociety5.0と次世代モビリティ

世話教員 ● 谷口 孝介(人文社会系・教授) ● 坪内 孝司(教学デザイン室長、システム情報系・教授)他

デジタル化する社会とエマージングテクノロジーの最新動向を共有して、日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用を議論。自動車エンジニアの経験と政府官僚の立場から最新動向を解説。

担当教員

内閣府 審議官(科学技術・イノベーション推進事務局)
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特別招聘教授、東北大学参与、大阪公立大学学長特別顧問
高原 勇 [Takahara Isamu]

キーワード

次世代モビリティ、スマートシティ、地域社会、Society5.0、カーボンニュートラル、エネルギー、食糧・農業、水資源

第1回

7/5 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論

第2回

7/12 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「日本が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論

第3回

7/26 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論



写真は昨年度までの授業風景です

秋AB 0A00401

多極化する世界とこれからの日本

世話教員 ● 谷口 孝介(人文社会系・教授) ● 坪内 孝司(教学デザイン室長、システム情報系・教授) 他

混迷の度を深める世界の中で日本は？難局に立ち向かう皆さんの決心は？

担当教員

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

キーワード

過去を知り、現在を正しく理解して、未来を予測する力を養う契機とする。
世界の潮流に対する知見を深め、自分の考えを発信することにチャレンジしよう。

第1回

10/18 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- アイスブレイク：自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話
- 講義「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論

第2回

11/15 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- 講義「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論

パネルディスカッション テーマ① これからの商社の人材戦略

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事担当本部長

橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

第3回

12/6 (水) 13:00-17:30 双日(株) 本社

パネルディスカッション テーマ② 商社の化学分野における将来戦略

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 経営企画担当本部長

植村 幸祐 [Uemura Kosuke]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

パネルディスカッション テーマ③ 事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来

パネリスト

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 広報、リスク管理担当本部長

河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

コーディネーター

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

- ラップアップ・セッション（ゼミ全体の振り返り）

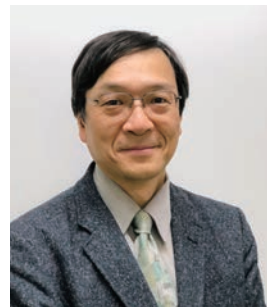
(17:30～ 双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定)

教員の声

知的でエキサイティングな土曜の午後

みなさん、土曜日の午後をこの「社会基礎学」の受講で、知的にかつエキサイティングに過ごしてみませんか？この科目の受講で広がる知識は、これから社会人になったのちに、あるいは就活の際にもきっと役立つでしょう。科目名だけみると、これは社会系の講義だろう、自分の専門分野とは直接関係ないし・・・と思うかもしれませんが、でも、講義に出席してみたら、その印象は徐々に変わり、自分の専門分野が社会を通してのどのようにかかわるかが、おぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。

これから各自が専門とすることになる学問分野は、およそ地球上にある物質や環境、人や生物の営みと関連します。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるまさにおススメの講義なのです。普段、新聞やテレビのニュースで見聞きする問題に日々接しておられる方々からの直接にお話を聞くことができます。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意します。積極的に自分の意見を表明して議論に参加してみませんか？教室でお会いしましょう！



教学デザイン室長
システム情報系教授

坪内 孝司

[Tsubouchi Takashi]



2023年度大学院共通科目部会長
人文社会系教授

谷口 孝介

[Taniguchi Kosuke]

千載一遇のチャンス

「实事求是」(事実に基づいて真実を追求する)とはすべての学問の要諦です。中国古代の正史『漢書』に出る語で、皇族のひとり献王劉徳を評したものです。学問のため献王は多くの善書を蔵していたと言います。ところが同じく皇族で『淮南子』の編者として著名な淮南王劉安も蔵書家でしたが、その蒐めたものは「浮弁」のものが多かったと言うのです。「浮弁」について唐代の顔師古のコメントでは「実用なし」と説明し、浮ついた誠意のない弁説は結局のところ現実に対処する力を持たないと言っています。ではそれとは逆に献王はどのような書物を持っていたかという点、『周官』『尚書』『礼経』『孟子』『老子』などの類で、いずれも「経伝説記」つまり正統的な学問教説を時代に応じて展開した書物であったとのこと。顔師古のこぼれを借りればこれこそ「実用」的だということになります。現在ややもすれば皮相的に捉えられがちな実用的/プラティカルの本源的な意味が古代中国において認識されていたことが分かります。大学院共通科目、とくにアドバンス・ディスカッションコースは、ものごとの本源を見極めて世界をリードしてきた現代の献王に、世界の現実にどのように対処したのかを具体的に開示してもらえる千載一遇の機会と言えるでしょう。

「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる人材とは？

日本プロジェクト産業協議会 常務理事
筑波大学客員教授

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

「グローバル化」というのは、既に皆さんにとっては当たり前の言葉でしょう。多くの旅行者・ビジネスマンが世界の国々を行きかい、世界中の情報はインターネットやSNSを通じて瞬時に入ってきます。他方で、コロナが世界中に急速に蔓延するという負の側面も我々は体験しました。好き嫌いに関係なく、世界との関係なしには日本や我々の生活は立ちゆかない、これがグローバル化した世界です。

一方、「地方の活性化」を考える際の「地方」とはどのような場所でしょうか？日本には、それぞれ独自の歴史・文化・特色を持った数多くの地方が存在しています。それをいかに輝かせることができるか、その際にも「グローバル」とい

う大きな活力を取り込むことが必要です。「グローバル化」と「地方の活性化」は相反する言葉ではありません。いずれにおいても、そこで活躍するためには、まずは自分自身を見つめること、磨いていくことが鍵となります。

この講義では、グローバルや地方において、それぞれ第一線で活躍する多彩な講師が登壇します。講師皆さんが抱えている、それぞれの夢や希望や現実的な課題を話してくれるはずです。これからの人生、あなたはどのような活躍の場所を見つけますか？この講義が、皆さんにとって自分自身の進む道を考える一助になればと思います。教室でお会いできるのを楽しみにしております。

筑波大学教員 システム情報系教授 教学デザイン室長
大学執行役員 先端教学推進機構長

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より教学デザイン室長。本講義もこの室長関連の仕事で関与している。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいいろいろ。

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

京都市出身。1993年新日本製鐵(現日本製鐵)入社。営業(厚板)、支店総務等を担当。勤務地は、堺製鉄所(大阪)を皮切りに、東京、名古屋、大阪を経験。最後の5年間はプロジェクト開発部にて海外インフラ案件を担当。東南アジア、南アジア、中東等にも出張。2022年からJAPIC勤務。趣味は、山登り、京都探訪(京都検定2級取得)、読書、少しだけ乗り鉄。

石破茂衆議院議員 政策担当秘書

吉村 麻央 [Yoshimura Mao]

早稲田大学在学中、米コロンビア大学に短期留学、多業種のアルバイトを経て政策担当秘書資格試験に合格。卒業後、石破茂事務所に勤務、在職ついに25年。年に一回程度、海外出張を無理にでも作りがち。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(退職済)。推理小説、釣り、海外ドラマ、マンガやアニメが好き。たまにライブもやる(ボーカル担当)。

経団連21世紀政策研究所 参与

太田 誠 [Ohta Makoto]

博士(学術/東北大学) ソウル大学政治学修士。経団連産業政策本部・国際協力本部次長(中国・韓国・ロシア担当)、ソウル駐在、21世紀政策研究所事務局長を経て22年より現職。人文学、芸術の政策への反映を研究。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。編著書『五次元視角からの東アジア：空間・時間・人間』(成澤勝博士古稀祝賀記念論集刊行委員会編、銀河書籍、2018年)等

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

1981年建設省入省。米国連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監、事務次官を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。2022年より内閣総理大臣補佐官として国土強靱化、社会資本整備、科学技術開発などを担う。また、東京大学、立命館大学等の客員教授も務める。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営企画部
チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、環境・エネルギー分野の部署にて環境関連計画・地球温暖化対策・生物多様性分野のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画、市場創出に関わる部署に異動、地域創生やプロジェクト化支援等に関わり、2018年より本社に異動、現所属。出身は岡山県。趣味は仕事と子育て(3人の息子を追い回す)。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

共同通信社 常務理事

沢井 俊光 [Sawai Toshimitsu]

1985年共同通信社入社。神戸支局、横浜支局で主に事件を取材。95年から海外特派員。ナイロビ支局でアフリカの紛争、飢餓、難民問題などを、バンコク支局でアジア地域統合、ミャンマー民主化などを、イスラマバード支局で対テロ戦争などを、ワシントン支局で米大統領選、イラク戦争などをそれぞれ取材。外信部長などを経て2021年から現職。東京都出身。趣味はテニス、読書。

丸紅株式会社 経済研究所 産業調査チーム長

重吉 玄徳 [Shigeyoshi Harunori]

1997年、丸紅株式会社入社。エネルギー部門を経てペンシルバニア大学ウォートン校でMBA取得。その後、金融、人事、広報部を経て現職。2014～2016年 経団連 経済政策本部に外向。東京商工会議所参与。青山学院大学経済学部非常勤講師、神戸大学経済学部非常勤講師。

三井不動産(株) 建設企画部長
三井不動産エンジニアリング(株) 代表取締役社長

雨宮 克也 [Amemiya Katsuya]

1987年4月、三井不動産(株)入社。長年、プロジェクトの企画、事業推進に従事してきた。主な担当に、ららぽーと横浜や東京ミッドタウンなど。また、鑑定企画室、スマートシティ企画推進部、三井不動産レジデンシャル(株)、三井不動産エンジニアリング(株)を兼務歴任し、都市計画や基盤整備の分野に幅広く関わっている。趣味は街歩き、読書等。慶大経卒、東大院修了、博士(工学)。

一般財団法人 計量計画研究所 理事
兼 研究本部企画戦略部長

牧村 和彦 [Makimura Kazuhiko]

1990年一般財団法人計量計画研究所入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事、将来のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナーとして活動。代表的な著書に「MaaSが都市を変える(学芸出版)」、「MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「Beyond MaaS(日経BP、共著)」等多数

登壇される講師のプロフィール一覧

(独)国際協力機構(JICA) 特命審議役

河西 裕之 [Kawanishi Hiroyuki]

海外経済協力基金(JICA前身)に就職後、サブサハラアフリカ、インドネシア、中央アジア・コーカサス、南アジア、運輸・交通、エネルギー、産業開発、ガバナンス等の地域・分野における開発協力を実践。財務や人事等も経験。2020年12月からインド高速鉄道建設事業の特命審議役。海外経験はインドネシア、イギリス、リベリアと約10年。本学国際関係学類卒。

内閣官房副長官補室 内閣審議官

佐々木 啓介 [Sasaki Keisuke]

1993年通商産業省入省。経済産業省産業資金課長 兼 新規産業室長、商務情報政策局サービス政策課長、大臣官房政策審議室室長、経済産業政策局産業創造課長、大臣官房会計課長などを経て、2022年7月より内閣官房副長官補室内閣審議官を担当。

(株)日建設計 執行役員 企画開発部門
新領域開拓グループ プリンシパル

石川 貴之 [Ishikawa Takayuki]

1987年日建設計入社。京セラドーム周辺地区、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年に(株)日建設計総合研究所に転籍し、東アジアやロシアでスマートシティなどの都市開発の案件組成支援を担当。2021年1月より現職。社会環境デザインに資するイノベーション推進を担当する。山口県出身。コロナ禍の在宅ワークが続く中、体重増加回避に苦勞する日々。

(株)三菱総合研究所 主席研究部長/
プラチナ構想ネットワーク 事務局長

平石 和昭 [Hiraishi Kazuaki]

1984年東京大学工学部土木工学科卒業。同年株式会社三菱総合研究所に入社。地域開発、交通計画、天然ガスパイプライン計画、海外事業(経済協力など)、マクロ経済、データサイエンスの各分野業務を歴任。MRIリサーチアソシエイツ副社長を経て、現在はプラチナ構想ネットワーク事務局長。趣味はゴルフ、テニス、音楽鑑賞。博士(工学)、技術士(建設部門)。

(一社)共同通信社 論説委員長

永井 利治 [Nagai Toshiharu]

一橋大社会学部卒。1986年毎日新聞社、88年に共同通信社に入社。経済部の記者として日米貿易摩擦、金融危機、銀行再編、財政・金融政策などを取材。1995年から98年まではワシントン支局。経済部長、特別報道室長、編集局次長、論説副委員長を経て2022年9月から現職。東京五輪・パラリンピックの取材、報道にも準備段階から5年余り携わった。千葉県出身

日本製鉄(株) 常務執行役員 人事労政部長

十河 英史 [Sogoh Eiji]

1989年新日本製鉄(株)(現・日本製鉄(株))入社。本社および製鉄所において営業、人事・総務等を担当後、2017年4月より薄板営業部長、2019年4月より執行役員人事労政部長、2022年4月より常務執行役員人事労政部長。出身地：香川県、趣味：ゴルフ・ウォーキング、愛読書：歴史小説

外務省 アジア大洋州局長

船越 健裕 [Funakoshi Takehiro]

外務省アジア大洋州局長 昭和63年外務省入省、在アメリカ合衆国日本国大使館、北米局日米安全保障条約課長、在韓国日本国大使館、国家安全保障局内閣審議官等を歴任、兵庫県出身

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

世界銀行グループ国際金融公社(IFC)東アジア・太平洋局Senior Investment Officer(インフラ担当)、DBJ Singapore Limited副社長企業金融部長、国際統括部担当部長、企業金融第5部担当部長、ストラクチャードファイナンス部長、執行役員(GRIT担当)兼経営企画部サステナビリティ経営室長を経て、2022年6月より現職。

防衛事務次官

鈴木 敦夫 [Suzuki Atsuo]

1985年防衛庁入庁。米国国立大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長、防衛政策局次長、統合幕僚監部総括官、政策立案総括審議官、整備計画局長、地方協力局長、防衛装備庁長官などを経て現職(いずれも当時の名称)。

経済産業省 通商政策局長

松尾 剛彦 [Matsuo Takehiko]

経済産業省大臣官房会計課長、資源エネルギー庁総合政策課長、電力・ガス取引監視等委員会事務局長、大臣官房審議官(通商政策局担当)、内閣府宇宙開発戦略推進事務局長等を経て、2022年から経済産業省通商政策局長。東京都出身。座右の銘は、信は万事の基をなす。

Profile

国土交通省 不動産・建設経済局長

長橋 和久 [Nagahashi Kazuhisa]

愛媛県出身。平成元年京都大学農学部卒業。同年建設省(現 国土交通省)入省。道路局において特定財源問題、住宅局において住宅税制や都市再生機構の法人改革等に携わる。大畠国土交通大臣秘書官、不動産産業課長、官房人事課長、総務課長、道路局長、官房総括審議官を経て現職。最近の趣味は朝のウォーキング(多摩川沿い)と休日の寄席通い。

株式会社みずほ銀行 執行理事 産業調査部長

遠藤 宏 [Endou Hiroshi]

1992年東京理科大学工学部卒業、同年、日本長期信用銀行入社を経て、2000年日本興業銀行(現・みずほ銀行)入社。営業部、海外駐在等を経験し、2019年東京法人営業部部長を歴任、国内外の産業調査・大企業法人営業に従事。2021年5月産業調査部部長、同年7月より現職。産業調査部では、国内外で140名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

内閣府 審議官(科学技術・イノベーション推進事務局)
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特別招聘教授、東北大学参与、大阪公立大学学長特別顧問

高原 勇 [Takahara Isamu]

トヨタ自動車株式会社入社。クラウン・レクサスGSなど新型車両の設計開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダーを経て、BR-VI室長、VA開発部長、技術統括部主査を務める。総合科学技術・イノベーション会議に係る政府委員、産業競争力懇談会実行委員ならびに筑波大学未来社会工学研究開発センター長を兼務。2019年6月から現職。筑波大学大学院システム情報工学専攻科博士後期課程修了。博士(社会学)。

筑波大学客員教授
双日(株) 代表取締役副社長執行役員 社長補佐、営業管掌 兼 東アジア担当

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

1982年日商岩井(株)、現双日(株)入社。双日(株)米国法人・経営企画部長、人事総務担当役員、アジア・大洋州総支配人、営業管掌役員などを経て2020年4月より現職。福岡県出身。海外在住は中国(北京)、米国(ニューヨーク)、シンガポールで通算12年。お酒とゴルフを嗜まない、商社パーソン・スタンダード逸脱モデルの人材だったが、コロナを機にゴルフに挑戦中。退任後の夢は、恵まれない子供達の教育。

筑波大学客員教授
双日(株) 常務執行役員 人事担当本部長

橋本 政和 [Hashimoto Masakazu]

1990年日商岩井(株)入社。愛知県出身。入社後は物流部隊に配属され、初出張は2年目の西アフリカ。1000km超の行程を夜宿しつつ輸送監督として走破。その後はロシア衛星通信網の構築、米国駐在中にはトヨタ生産方式の普及活動、2011年インフラ事業へ転身、鉄道や再生エネルギー事業に取り組んだ。環境・産業インフラ本部長、エネルギー・社会インフラ本部長、インフラ・ヘルスケア本部長、人事、総務・IT業務担当本部長を経て、2023年1月より現職。私生活では十数年ふりに下手なゴルフを再開、人より多く歩き、走り回ることによって運動不足を解消中。

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 広報、リスク管理担当本部長

河西 敏章 [Kasai Toshiaki]

1968年生まれ、東京都出身。1990年日商岩井(株)入社。企業審査を担当後、ブラジルに駐在しリスク管理、法務を担う。双日発足後は、リスク管理部長、米国駐在(経営企画)、人事・総務部長を経て、2020年より執行役員 人事、総務・IT業務担当本部長として、人事及びIT領域の改革を推進。2022年4月より現職。また、2004年より約3年間鉄道業界に身を置き、他業界も経験している。ブラジル生まれの大学生の息子と娘。趣味は妻と週末ウォーキング。

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 経営企画担当本部長

植村 幸祐 [Uemura Kosuke]

1993年日商岩井(株)入社。インドネシアへのプラント輸出ファイナンスを担当した後、米国留学。2001年MBA取得後、エネルギー事業部に異動、2003年米国石油・ガス開発事業会社の設立と共に、米国駐在。米国事業会社副社長、エネルギー金属資源米州地域部門長などを経て、2018年4月化学本部へ異動、2021年4月より化学本部長、2023年4月より現職。事業投資中心のエネルギー分野からトレード主体の化学本部に業務内容が変わったこともあり、人材・組織力を重点的に本部成長戦略を展開中。



世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

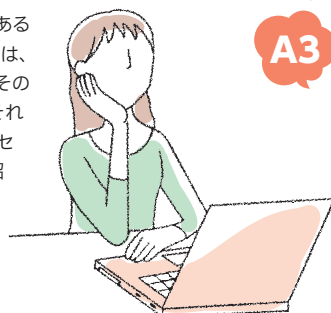
総合科目 (学士基盤科目) 春B 社会基礎学Ⅰ 「グローバル化と 地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成 オーガナイザー 坪内 孝司 他	第1回 5/27(土) 14:00-17:00	【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針 【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	坪内 孝司 林田 康洋 吉村 麻央・太田 誠 林田 康洋・坪内 孝司
	第2回 6/3(土) 13:30-16:30	地域資本を活用した地域経営 未来の国土づくりを担う皆さんへ	石崎 晶子 森 昌文
	第3回 6/10(土) 13:30-16:30	グローバル化と戦争 国際経済と総合商社の活動	沢井 俊光 重吉 玄徳
	第4回 6/17(土) 13:30-16:30	民間デベロッパーとエリアマネジメント モビリティ革命とMaaS(マース)	雨宮 克也 牧村 和彦
	第5回 6/24(土) 13:30-16:30	国際協力の考え方、およびその実践を通じたグローバル人材の必要要素について 最近の経済産業政策について	河西 裕之 佐々木 啓介
	7/8(土) 13:30-16:10	期末試験	
総合科目 (学士基盤科目) -高年次向け- 秋AB 社会基礎学Ⅱ 「グローバル化と 地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成 オーガナイザー 坪内 孝司 他	第1回 10/7(土) 13:30-16:30	【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	林田 康洋 石川 貴之・平石 和昭 林田 康洋・坪内 孝司
	第2回 10/14(土) 13:30-16:30	企業経営の現状・課題と戦略 日本経済が向き合うリスクと変革の可能性	十河 英史 永井 利治
	第3回 11/11(土) 13:30-16:30	北東アジア情勢と日本外交 組織におけるダイバーシティと人的資本	船越 健裕 原田 文代
	第4回 11/25(土) 13:30-16:30	日本の安全保障環境と防衛政策 我が国通商政策の現状と課題について	鈴木 敦夫 松尾 剛彦
	第5回 12/2(土) 13:30-16:30	【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備	長橋 和久・遠藤 宏 林田 康洋・坪内 孝司
	12/16(土) 13:30-16:10	期末試験	

Q & A

Q1 「社会基礎学」とは何ですか?

A1

この講義では、国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組など様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組やその実践に至るプロセスをご紹介します。講師の方々から紹介いただく内容そのものが、地球も人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。そこで、講義名を「社会基礎学」としてみました。



Q2

受講することにより どんなことが期待されますか?

A2

この講義で学んだことを基礎に、今度は受講した皆さんご自身が、社会にどのように貢献し、どのように力を磨き、そのために学生の期間をどう使えばよいのか、を考える一助にしてほしい、と期待しています。学生の皆さんにはこの講義で最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉えることで、人間力、汎用力、広い視野を持ったグローバル人材としての能力を身につけてほしいと思います。

Q3

学士基盤科目って1科目だけ 受けておけばいいんですよね?

A3

確かに、総合科目のなかで学士基盤科目と設定される科目から1単位以上取得することが全学共通の卒業要件になっていますが、これは必要最小限の数にとらえていただきたいのです。この要件に関係なく、知見を広げるために興味のもてる科目の受講を歓迎します。本学の特長である総合智教育のなかで、汎用性をなす科目群としてこの学士基盤科目も設定しています。自分の専門領域にとどまらず、その領域の外からの視点でのもの見方にも触れることで、知識の裾野を広げ、「複眼的」「俯瞰的」な視座をもってほしいと願っています。このような視座は「創造的問題解決」をしてゆく力の源泉となると考えられるからです。

世界に挑む産業界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース

春C 日本が目指す 次世代モビリティ Society5.0x 担当教員 高原 勇	第1回 7/5 (水) 13:00-17:30	講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論	高原 勇
	第2回 7/12 (水) 13:00-17:30	講義「日本が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論	高原 勇 他
	第3回 7/26 (水) 13:00-17:30	講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論	高原 勇 他
秋AB 多極化する世界と これからの日本 担当教員 平井 龍太郎	第1回 10/18 (水) 13:00-17:30	【アイスブレイク】 自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話 講義「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第2回 11/15 (水) 13:00-17:30	講義「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論 【パネルディスカッション】 テーマ①: これからの商社の人材戦略 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論	平井 龍太郎 橋本 政和
	第3回 12/6 (水) 13:00-17:30	【パネルディスカッション】 テーマ②: 「商社の化学分野における将来戦略」 【パネルディスカッション】 テーマ③: 「事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来」 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論 【ラップアップ・セッション】	平井 龍太郎 植村 幸祐 河西 敏章



Q4 秋の講義は春の講義を受けた人でないと受けられませんか?

A4 それぞれ独立した科目なので、どちらかだけでも受講することができます。また、春学期の講義内容が、秋学期講義の前提知識として求められることはありません。



Q6 授業の雰囲気はどのような感じですか?

A6 講義の回は、各講師の話聞いた後、質疑応答の時間があります。また、パネルディスカッションを行う回では、会場からの質問や意見をもとにパネリストがそれぞれの立場から発言し、議論が展開されます。皆さんの声が講義に反映されますので、積極的な発言を期待します。更に、授業後は講師に個別に質問することもでき、質問待ちの行列ができることもあります。

Q5 1年生ですが、秋の高年次向け講義を受けてもいいですか?

A5 履修登録上の制限はありませんので受講可能です。社会基礎学Iでの学びで、広範な知識を得て、考え方の基礎となる種が植えられ、としましょう。本学での様々な科目の受講は、たとえそれらが専門智の涵養を目的としたものであっても、その種から発芽した若木を育てる養分となるかもしれません。また、将来の就職のための業界研究やインターンシップに参加すると、もっと社会に直結した経験が得られ、同様に養分になることでしょう。例えば3年次に社会基礎学IIを履修すると、そのような養分を得て立派に育ちつつある若木をさらに大きく育てることになり、すなわち学びが深まることを期待しています。そのような期待をもって、この社会基礎学IIを高年次向けと称しています。

Q7 「大学院アドバンストディスカッションコース」はどのようなものですか?

A7 大学院共通科目として2科目開講されていますが、いずれも10～15名程度の少人数のディスカッションコースです。産業界のトップリーダーと直接対話できることもこの講義の特長ですが、様々な分野の学生が集まって濃密な議論が行われることも大きなポイントです。講義の事前・事後課題や提示される課題図書、統計資料を読み込み、論点を整理し、授業に臨むことで大いに学びが得られます。

- 総合科目(学士基盤科目) 社会基礎学Iに関するQ&A
- 総合科目(学士基盤科目) 社会基礎学IIに関するQ&A
- 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースに関するQ&A

受 講 案 内
2023

筑波大学



JAPIC

日本プロジェクト産業協議会

■ 総合科目(学士基盤科目)

(科目番号1226151)

社会基礎学Ⅰ

■ 総合科目(学士基盤科目-高年次向け-)

(科目番号1426011)

社会基礎学Ⅱ

■ 大学院共通科目

(科目番号0A00402)

日本が目指すSociety5.0と次世代モビリティ

■ 大学院共通科目

(科目番号0A00401)

多極化する世界とこれからの日本